

平成 27 年度「オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」 事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
 II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
 III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
 IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
 V 児童生徒オリンピック、パラリンピックを通じた国際理解教育の推進

実践事業	【 I 】	I～Vを記入して下さい。	
学校名	京都市立西賀茂中学校	全校生徒数	694名
実践学年、部、講座等	第1学年 (男子129名・女子100名) 第2学年 (男子129名・女子112名) 第3学年 (男子114名・女子110名)		
目 標 (ねらい)	オリビズムの観点(○印) <重複可>	友情 (○) 卓越 (○) 尊重 (○)	
	オリンピアンの講演を通して、体育・スポーツへの関心を高め、自ら進んでスポーツに取り組む意識を育てる。		
実践内容	＊オリンピアンの奥野史子さんによる講演会の実施 ①事前学習…講師のプロフィールの紹介およびオリンピック誕生の歴史とシンクロナイズドスイミングの歴史についての学習 ②12月11日(金)に講演を実施 ③事後学習…講演会を通して学んだことをまとめる		
実施上の留意点等	＊事前学習用資料 ①奥野史子さんのプロフィール(記載内容は事前にご本人が確認) ②奥野史子さんの紹介DVD(ご本人にお借りしたもの) ③オリンピック誕生の歴史(参考:日本オリンピック委員会のHP) ④シンクロナイズドスイミングの歴史(参考:日刊スポーツ新聞社)		
主な成果 (分析結果)	＊奥野史子さんの講演会を通して、スポーツの持つ価値や効果を再認識するとともに、今後の学校生活や部活動をはじめとしたスポーツ活動への取組姿勢の向上が期待される。		

<生徒感想文より>

- *「限界は自分でつくるもの」という言葉が印象に残った。自分がしんどいと感じた時に、自分で自分にブレーキをかけている自分に気付かされた。
- *厳しい練習をやりきった時は、「根拠のある自信が生まれる」という言葉はすごいと思った。
- *奥野さんの話を聞いて、中途半端はだめだと思った。何事も、本気でやりきる必要があると思った。
- *奥野さんは「ピンチはチャンス。どんどん失敗すればよい」とおっしゃっていたが、「失敗したときにどうするか」が大切だとわかった。
- *奥野さんだけでなく、奥野さんを支えてくれた「友人」の支えもすばらしいと思った。

<講演会のようす>



※生徒代表が、オリンピックメダルを持たせていただきました！

主な課題等

- *オリンピック等の講師を招いて講演会を実施する場合、講師の依頼方法や講演料の限度額、日程調整の難しさ等の課題をクリアしなければならない。
 - ※奥野史子さんについては、本市の教育委員をされている関係で体育健康教育室の仲介で進めることができた。

【報告書作成にあたっての留意事項】

※1…A4 1～2ページ程度で作成をお願いします。

※2…表記の仕方について

(1) 字体（フォント）等について

本文は「HG丸ゴシックM-PRO」、12ポイントのサイズで記入してください。

(2) 項目の表記について

項目を細別する時には、以下の順序で見出し記号を記入してください。

【項目表記の順序】		【表記例】
〔見出し記号〕	〔文字サイズ〕	
1	←全角・15ポイント	1 体育系研究発表会での取組 (1)「研究調査」の実施 本校では、……（略）……に取り組んだ。 ア スポーツボランティア活動について イ パラリンピック種目について …
(1)	←半角・12ポイント	
ア	←全角・12ポイント	
(ア)	←半角・12ポイント	
2		
(1)		
ア		

※3…児童・生徒が活動している様子を写した写真（3～5枚）も、貼り付けてください。
（ただし、写真掲載に係る本人への事前許可は、各校にて御対応願います。）

※4…取り入れた教材等があれば、記入してください。

※5…主な成果（分析結果）については、感想文の抜粋やアンケート集計等を活用していただいてもかまいません。

※6…オリンピズム（「友情」「卓越」「尊重」）を踏まえた教育活動として、どのような成果が見られたかを必ず記入してください。